

HUGってみよう

～誰もが助け合えるために～

「Doはぐ」貸し出し始めました

避難所運営ゲームHUG（はぐ）は、H（hinanzyo避難所）、U（unei運営）、G（gameゲーム）の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味です。

避難者の年齢、性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームです。

平成19年に静岡県で製作され、北海道版は静岡のオリジナル版をベースに雪や寒さなどの観点を加え、北海道（Hokkaido）のDo、やってみようのDから、愛称を「Doはぐ」（ドウはぐ）としています。

空知総合振興局には3セット（最大約150名利用可能）有り、貸し出し可能ですので、お気軽にお問い合わせください。

貸出先第一号 栗山町立栗山中学校

平成28年5月19日（木）に空知管内貸出先第1号として栗山中学校さんの2年生が道德の授業として「Doはぐ」を行ってくれました。

はじめにホールに集合し「Doはぐ」の説明や諸条件説明を先生が行い、その後3クラスに分かれて教室に入り、各クラス6グループ、全体で18グループに分かれて、先生が用意してくれた体育館の平面図、教室の平面図などを各グループの机に置き、ゲームを始めました。避難者のカードやイベントのカードに書かれている様々な内容に、生徒の皆さんは、話し合いをたのしみながら、そして難しい課題には真剣に議論しゲームを進めていました。見学させていただいた私も、とても有意義で2時間が過ぎるのを早く感じました。

HUGの感想



たくさん意見を出し合うことができた。いろいろな場面があり、判断するのが難しかった。

すごく楽しかった。ずっとやっていたいと思った。最初の方はどうすればいいのか少し考えたけど、だんだんわかってきて、ちょっと頭を使うゲームだと思った。

いろいろな事情を抱えている人が多くて、上手いかなかった本当の災害になったらもっと大変なのでDoはぐで勉強になった。

生まれてから大きな災害を経験せず、避難所について知らなかったのが、今回のゲームを通して運営の難しさを実感した。

イベントや個人情報がリアルでよいシミュレーションになった。

とても楽しく活動することができた。避難してくる人は、色々な事情を抱えている人がたくさんいて振り分けるのは大変だなと思った。テレビで見ていること以外にも、場所を決めたり、ケガの人や調子の悪い人を対処したりと大変だなと思った。

大きな災害が発生したときに、発生直後の時点では行政ができることは限られてしまう可能性があります。このようなときに、重要なのは、地域住民による自主的かつ組織的な活動です。東日本大震災時に、避難所運営を行った町内会さんや、避難所に指定されていなくても多くの方が集り、結果避難所となった児童館館長さんの、この「HUG（はぐ）」を経験していたことにより大変助かったという体験談が数々あります。また、運営側でなく避難者になった場合にもこのHUGの経験により、何をやるべきか、やれるのかと言う自主性が出ると言われております。

